

2020年6月

全国協議会ニュース

簡易版

全国協議会設立 30 周年記念式典 及び 2020 年度通常総会開催

全国協議会は今年の 6 月 24 日で設立 30 周年を迎えます。これまで支えていただいた皆様に感謝申し上げます。

5 月 30 日(土)に東京新宿区で開催を予定していた記念式典は WEB 上で行い、引き続き 2020 年度通常総会を開催いたしました。

新型コロナウイルス拡大防止の為、第 336 号の発行は中止といたしました。
簡易版として HP でお届けいたします。

設立 30 周年記念式典

30 周年の区切りの年であり、全国からボランティアや関係者に参集頂き盛大に行う予定でしたが、コロナウイルス蔓延で自粛が行われている現状では、皆様にお集まりいただくのは危険との苦渋の決断をいたしました。

13 時から始まった式典では仲田順和会長の挨拶(下記参照)、来賓紹介、感謝状贈呈先紹介、また今回発行された「白血病と言われたら」改訂第 6 版(ハンドブック)について野村正満編集長(副会長)から発表がありました。

今回の改訂版は冊子の発行とインターネットから無料ダウンロードできる画期的な方法で、今すぐ必要な患者さん・患者家族が見られるようになっています。

<全国協議会会長 仲田順和挨拶>

「全国骨髄バンク推進連絡協議会設立 30 周年記念式典」の開催にあたりまして、日ごろよりあたたかなご支援を頂いております皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

現在、日本のみならず世界的規模での新型コロナウイルスの蔓延という事態のもと、誠に残念ながら「2020 全国骨髄バンクボランティアの集い in 東京」の開催は感染拡大が収束を迎えるまで延期となり、誠に遺憾に存じます。しかしながら、どのような状況下であっても、全国的な骨髄バンク運動の展開や血液難病の患者さんとそのご家族の支援活動の歩みを止める訳には参りません。こうしている間にも、血液の病気で苦しんでいる方々は多数いらっしゃいます。私共が今までに体験したことのない未曾有の社会情勢の中で、その不安は増幅されていることは想像に難くありません。今こそ、弛むことなく支援の輪を広げ続けることが求められています。

公益財団法人日本骨髄バンク、日本赤十字社など関係機関の皆様、並びに骨髄バンク活動を支えているボランティアの皆様は困難な状況の中においても、その必要性を十分に認識し移植を必要とする患者の皆様、そしてご家族の方々に善を尽くしていただければなりません。全国骨髄バンク推進連絡協議会も加盟団体の皆様とともに引き続き積極的な活動を続けて参る所存です。設立 30 周年記念事業としてハンドブック「白血病と言われたら」改訂第 6 版の発行は、病初期の患者さんに対して、大きな励ましになるものと信じています。この度、皆様をお招きすることなく変則的な形ではありますが、記念式典を開催すべきとの結論に至りました。新型コロナウイルスに負けることなく皆様の善意を力強く推進して参りたいという想いでいっぱいです。

式典におきまして、当協議会の 30 年を支え続けて下さった、団体・企業・個人の皆

様には心からの敬意をお伝えすると同時に皆様の真心に心から感謝申し上げます。

社会全体が先を見通すことの難しい時代を迎えておりますが、皆様の真心によって明るい未来を切り拓いていくこと、そして遠からず「2020 全国骨髄バンクボランティアの集い」を開催し皆様とともにすることを楽しみにし、ご挨拶とさせていただきます。

2020 年度通常総会

式典に続き 2020 年度の通常総会が行われました。

1・2号議案では 2019 年度の事業報告と決算報告及び監査報告が、3・4号議案では 2020 年度の事業計画案と予算案が説明され、何れも各加盟団体の代表者による質疑後ご承認をいただきました。

第5号議案では定款変更の説明があり、諮問機関に参与を追加する案が提出され承認いただきました。

今回の式典と総会は、WEBによるリモート会議で行い、何度かリハーサルしましたが、まだまだ不慣れでご覧いただいた方にはご迷惑をお掛けしましたが、無事終了しました。

まだコロナウイルスは終息が見えてきませんが、感染に十分注意を払っていただきますように。

コロナ禍における日本骨髄バンクの取組み

2020 年を迎えて間もなく、新型コロナウイルスが瞬く間に世界へ広がりました。日本国内でも感染者が急増して「緊急事態宣言」が4月に発令されました。宣言は5月末に解除されましたが、日本骨髄バンクでは移植を待つ患者さんとコロナ禍でも提供意思を持ち続けるドナーの想いをつなぐべく「コーディネートを止めない」という方針のもと、対策を実行してまいりました。

ドナーコーディネートでは、外出自粛要請中でもドナーの皆様や採取施設のご理解を頂きながら、採取の確実な実施を最優先しました。しかし善意のボランティアであるバンクドナーとご家族の健康と安全を守り、ドナーに起因する院内感染を防ぐため、特定警戒都道府県にお住いのドナーに対しては、確認検査や最終同意面談の実施を一時的に見送らざるを得ませんでした。その他の地域では、感染予防に細心の注意を払いながらWEB会議やスマホを利用した面談を含めコーディネートを継続しました。

患者さんには確実な移植に繋げるための緊急措置として「造血幹細胞の凍結保存」を一時的に認めました。前処置開始後のドナー感染による移植直前中止を回避するための措置です。さらに制限地域にお住いのドナーの進行に合わせ、ドナー選定期限を一時的に「期限無し」としました。

これまで経験したことがないコロナ禍でのコーディネートには多くの困難がありましたが、ドナーの皆様や関係者の方々のご理解ご協力のおかげでバンク事業を継続できたことに心から感謝いたします。

ドナー登録では、登録関係者の安全確保と感染拡大防止を最優先しました。新規ドナー登録の約7割を占める大学や企業、ショッピングモールなどの「人が多く集まる場所」での献血併行型登録会は中止となりました。献血ルーム等での登録呼び掛けもほとんど実施できず、2020年4月以降の新規登録者数は残念ながら激減しました。

先が見えないコロナ禍ですが、感染第2波を見据えて患者やドナー、関係者の皆様のご不安ご心配を払拭しつつ、骨髄バンク事業を進めて参ります。今後ともご支援・ご協力をお願い申し上げます。

(公益財団法人 日本骨髄バンク 広報渉外部長 小島 勝)

各地のたより

「骨髄移植ドナー支援事業助成金」開始

奈良市で「骨髄移植ドナー支援事業助成金制度」を作って頂き、5月28日（木）仲川げん市長が記者発表をして下さいました。

私は、会社が休みの日に奈良県内で「骨髄バンク登録会」をしています。関心ある方に説明し、理解してもらった上で、骨髄バンクに登録して頂くというもの

です。その際、骨髄バンクの理解はしてもらっても『患者さんと型が一致した時、仕事が休めないから登録できない。』と、登録を断られることが多いです。

断られた時、橿原市には「骨髄移植ドナー支援事業助成金」があるので、橿原市民の方であれば、市の制度をご紹介すると、だいたい登録して頂けます。奈良県内で、このような制度があったのは、一昨年まで橿原市だけでしたが、昨年、天理市と大和郡山市でも制定されました。そして今年、香芝市と奈良市でも設けられました。

骨髄提供には数日の入院が必要です。市長や市議会議員さんは、給料が安定されていますが、コロナでの営業自粛要請と同じで「仕事を休んで下さい。」というのは、難しい方もおられます。今回、奈良市には、そんな仕事を休むと金銭的に厳しい方の事を理解して下さる優しい市議会議員さんと市長がいて、制度が出来ました。

骨髄バンクに登録しても、実際に提供することは、滅多にないと思います。だから、橿原市でも、今までに助成金を利用された方は数名です。昨年度も0だったそうです。でも、誰も利用しない助成金制度だから廃止ということは、今のところないだろうと、橿原市役所の担当部署の方は仰って下さっていて、有難いです！

つまりそれだけ、骨髄の中の細胞の型は多く、骨髄バンクを介しての治療を希望される患者さんの56%（昨年）しか、実現していません。でも毎日、新たな骨髄バンクへの登録があり、新規登録者の中から一致した人が見つかったという話も聞きます。

奈良県でも、骨髄バンク登録率が2017年まで全国ワースト2位でしたが、今は全国30位になるくらい、登録者が増えました。

今日の奈良市長の記者会見を、一社でも多くの記者さんが取り上げて下さり、一人でも多くの方の骨髄バンク登録があれば嬉しいです。現在、コロナの影響で、骨髄バンク登録会は行われていません。大阪では来月から再開されますが、奈良県は来月も自粛です。でも、登録会がなくても、献血ルーム等で登録が可能です。（小笹晃子）

生まれて初めての記者会見

仲川げん奈良市長と奈良市の骨髄ドナー助成金制度導入について、元移植患者の立場から記者会見でお話いたしました。

若き市長の、「住むところで助成金がある、ないと差があるのはおかしい、どんどん拡げていきたい」と心強いお言葉。助成金があることで、骨髄バンク登録に前向きになってくださる方が増えると嬉しいです。（浅野祐子）



心からのご寄付に感謝申し上げます

●4月21日～5月20日(敬称略)

●一般

藤波 敬子	現金	10,000 円
塩谷 圭	現金	1,000 円
田中 重勝	現金	50,000 円
鈴木 あや子	現金	30,000 円
松浦 大助	現金	74,517 円
白井 一義	現金	1,650 円
竹迫 一任	現金	50,000 円
塩谷 泰人	現金	1,000 円
匿名	現金	2,000 円
匿名	現金	3,000 円

●志村大輔基金

ミツハシ ヒデミネ	現金	3,000 円
匿名	現金	5,000 円

●募金箱

株式会社クスリのアオキ	現金	763,301 円
株式会社 マルト商事	現金	81,252 円
足立眼科医院	現金	10,779 円
グリーン薬局	現金	5,930 円

●白血病患者支援基金

ブックオフコーポレーション株式会社	現金	45 円
-------------------	----	------

●つながる募金

現金	24,400 円
----	----------

●佐藤さち子基金

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構

福原 卓也	現金	4,977 円
	現金	3,000 円

活動資金の支援をお願いします

- 郵便振替口座 00150-4-15754
- 三井住友銀行新宿通支店 普通)5666655
口座名義(共通)「特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会」

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンクNOW

日本骨髄バンクの現状 (2020年4月末現在)

	3月	4月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,103	873	528,797	828,727
患者登録者数	237	201	1,938	59,155
移植例数	87	89	—	24,323

4月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/586人、献血併行型集団登録会/237人、
集団登録会/0人、その他50人

4月の年齢別ドナー登録者数 (現在数)

10代 4,684人/20代 82,825人/30代 138,805人
40代 223,761人/50代 78,722人

4月の20歳未満の登録者 53人

4月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数 936件

※数値は速報値のため訂正されることがあります。



特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会

〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4 KTビル3階

TEL: 03-5823-6360 FAX: 03-5823-63657 E-Mail: office@marrow.or.jp